

氏名	宮内和瑞子
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第544号
学位授与の日付	昭和58年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	うつ病における髄液アミン代謝物質と環状ヌクレオチド
論文審査委員	教授 庄盛敏廉 教授 森 昭胤 教授 産賀敏彦

### 学位論文内容の要旨

うつ病では脳内アミンが重要な役割を演じており、生物学的疾患としての解明がなされつつある。今回、生化学的研究の一環としてうつ病患者の髄液アミン代謝物質と環状ヌクレオチドを測定し、次のような結果を得た。

髄液 5-HIAA はうつ病患者全体で有意に低値で、抗うつ薬治療でさらに有意に減少した。その中でも、major depression 群、または臨床的によく改善した群、初発例ほどより低値であり、このような低値の群は抗うつ薬治療によっても変化しなかった。髄液 HVA はうつ病患者全体で有意に低値で、抗うつ薬治療で有意に増加した。しかし、特に抑制症状の強い群でより低値で、抑制症状改善に従って増加していた。髄液 MHPG はうつ病患者で変化がなかったが、抗うつ薬治療によって全例減少した。髄液 c-AMP、はうつ病患者では変化がなかったが、うつ病が寛解すると有意に増加していた。また髄液 c-GMP とともに、うつ病寛解後には有意な高値を示した。

これらのことより、以下の3点について考察した。すなわち、①うつ病における生化学的異種性について、②得られた生化学的所見が、うつ病の形質指標であるか、状態指標であるかについて、③いかなる生化学的所見がうつ病の改善の指標となるかについてである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、うつ病の臨床神経化学について研究したものであり、従来ほとんど行なわれなかった脳せきずい液中のアミン代謝物や環状ヌクレオチドを検索し、この成績を新

しい病型分類法から考察して「うつ病」の生物学に重要な知見を加えたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。